

草の根のちからを全県、全国に！

第6回常任理事会報告

2012 "N4E・10" 草

第6回 常任理事会が4月10日（火）午後2時から県平和委員会事務局で開催されました。討議の柱は、①「さよなら原発4.1 県民大集会inいばらき」の総括 ②5・3憲法フェスタの取り組み ③仲間づくり です。参加者は15人でした。

さよなら原発のとらつき

- 阿見平和の会は土浦実行委員会のバスで参加した。この4.1 県民集会在相手側にいかに迫っているかが問われてた。開催まで期間は短かったが、多くの人たちの力で準備したことに、この集会の意義があった。三コースの自動車パレードを実施した。渋滞の中で「どこでやっているか」と思った状況だった。新聞では「東海原発まで自動車パレードをした」と書いてあった。不十分だったにしても意義があった。
- パレードは、東海原発までみんなで行けばよかったのではないかな。
- 渋滞で時間的にも無理だった。他県から来た人の帰ることも考えて対応した面もある。



廃炉のとらつき

- 東海第二原発の再稼働に対して、「県内では、44%の自治体の首長が反対している」という記事が朝日新聞に出ていた。東海第二原発に対し、反対」や「不要」をいっている。これらの自治体の首長の対応を詳しく知りたい。朝日新聞で1週間ぐらい前（4月2～3日）の記事だった。
- それぞれの自治体の首長に申し入れをすればはっきりする。首長の声をだすために、要請行動を起すことが大切だ。首長の態度を調査しながら対応することも必要だ。
- 請願に対する態度がまだ決まっていない自治体もある。東海村議会の原発特別委員会では、休会中だった4月9日も開催した。当日はきまらなかった、次回（4月23日）の委員会で決める。東海村議会に請願を出した団体は、委員会で10分間の説明をした。
- 普通では、議会請願を「継続審議」にした場合は不採択と同じ扱いになることが多い。しかし、東海村議会では請願者の意見を聞いている。普通はやらない。東海村議会はかなり丁寧にやっている。というのは「村長の思いも働いたのかな」と思う。
- 那珂市にも議会請願を提出した。しかし委員会の傍聴はできるが、請願者に発言はさせない。議会では原子力特別委員会の委員10人で討議するが、請願者は呼ばない。
- いずれにしても、6月議会に請願や陳情を行い、各議員に働きかけることは必要だ。
- 自治体の首長と議会議長に働きかけることや、審議する委員会の委員長や委員にも何らかの働きかけをすることも必要だ。地域で主体的に行動を起すべきだ。
- 結城市でも「東海第二原発の廃炉」請願を出した。一方、東海第二原発の職員が請願を審議する委員会の委員を訪問し、名刺を出して委員と懇談している。その後、委員会を傍聴し

た。そんなこともあり、請願の結果は「継続」扱いになった。

- 東海原電が、東海第二原発の廃炉の請願を審議する自治体の議員に会いに行くのはおかしいのではないかな。法律的に権限はない。われわれには請願権があり、それに基づいて請願する。審議する議員に会いに行くのだから正当性がある。「請願者でもないのに委員会のメンバー（議員）に会うのはおかしい」と思うことをはっきりさせたほうがいい。
- 石岡市も継続になった。6月議会には「東海第二原発の廃炉を求める会」を立ち上げ、議会へは署名をぶっつけようと、運動を進めている。自治体の首長や議会に署名をぶっつけていくことは重要だ。
- 首長より議会議長に出していくと良いのではないかな。
- 首長にも出すし、議会議長にも出すといい。運動の1つ1つを地域の隅々の下げていくように運動を進めて行く。草の根的な運動をもっともっと進めることが重要だ。
- 原子炉の稼働差し止め訴訟等に取り組むことも重要だと思う。
- 県民の指示のない裁判闘争は勝てない。県民の指示を大きくする運動を展開し、多くの人たちが「裁判でたたかおう」ということにならないと勝つ展望が出てこない。事故満足的に「裁判をやった」ということになるのではダメだ。
- 裁判でたたかっても、「東海第二原発を廃炉に」とか「再稼働の差し止め」という判決にはなかなかならない。署名やその他の方法をつかって、「市民の声が裁判所を包囲する」ような運動をあわせて進めなければ、多くの市民が望むような判決は出てこない。
- 常総生協が「東海第二原発の稼働反対」の訴訟を起すという記事が昨年10月頃に出ていた。今は5月に訴訟に入るという話も出ている。「原発の再稼働を許さない」ためには、裁判は重要な手段だ。しかし裁判闘争は時間も長くかかるし金もかかる。平和委員会は動きを見ながら、十分に討議をした上で対応することがいいのではないかな。今すぐという話ではない。

前進座五月国立劇場公演

☆ 歌舞伎十八番の内 『鳴神』

☆ 『芝浜の革財布』

2012年5月11日(金)～22日(火)

東京・三宅坂 国立劇場大劇場

平和かわら版No. 623 (4月25日号) 別刷り

(1/2 ページ)



賛同金の獲得

- 3月17日、東海では「4. 1集会チラシ」を、新聞折り込みで全戸配布をやった。実行委員会を立ち上げ、会場の要員にも多数参加した。賛同金を集約した。Kさんが責任を持って取り組んだ。
- 那珂では14口7,000円集約した。平和委員会の会員でない人からも賛同金を受けた。団体も1口応じた。
- 土浦では実行委員会を結成した。賛同金は382口、団体は13口の賛同金を集めた。大きく成功させたと考えている。実行委員会参加団体は、平和委員会、年金者組合など、各層の組み合わせで、効率的に運動を進められた。阿見平和委員会も一緒にやった。
- 農民連で食料の担当をやった。参加人数は350人くらいだ。赤飯500食を完売した。イチゴもたくさん売れた。要員一人当たり1500円も売り上げた。署名は放り投げて置いたせいもあったが、170筆くらい集約した。
- 石岡では「東海第二原発の廃炉を求める会」を立ち上げて取り組んだ。署名をYさんが中心になり集約した。
- ひたちなかでは3月7日平和委員会に賛同金80人分(4万円)を集約した。その後8人分も追加した。
- 内原・友部では笠間九条の会のバスで参加した。5口分2500円を集めた。内原からは賛同金を10何口か提出した。
- 小美玉は会員数分を提出した。
- 個人分18口、団体1口集約した。
- 笠西では個人7口、団体1口集約した。九条の会として納めた。

5.3 憲法フェスタのとりくみ



- フリーマーケットで2つのテントを借りた。Kさんを代表にして九条の会の交流もやろうということにした。ポスターを貼りは100枚、北口でなく南口をやった。お願いに伺った店で対応した人は若い人が多かった。20代から30代の店長や責任者だった。その人たちにポスターを渡し、チラシを渡した。全部やりきった。スロットマシンなどをやっている店の中にも入って話をした。若い人に話をしていくことが大切だ。午後

は水戸駅頭宣伝をやった。テッシュがあったので若い人もチラシと一緒に受け取ってくれた。チラシを受けとれば必ず見られる。昼の時間帯は若い人の通行が多かった。

- 赤飯をやると儲かるね。百里平和委員会では「赤飯」をやろうと考えている。
- 憲法フェスタでは「九条」がでていない。国連憲章や九条など、憲法のテントがないといけない。今回は扱う課題が多彩になっている。平和委員会では「沖縄問題」と「原発事故」のテントに責任をもつが、パネルだけでいいのか？を考えているところだ。
- Dさんはパネルをよく見ている。しかし若い人には「全然見たことがない」人も多い。同じパネルであっても何回でも展示して、よく見てもらう必要がある。準備には5~6人必要になる。協力してほしい。
- 九条の会としての取り組みはどうなっているのだろうか。九条の会には、県の実行委員会はあるのだろうか。
- 九条の会のテントがある。そこへ九条の会の県実行委員会入れたらいいのではないかな。
- ひとりでもふたりでも参加を呼びかける行動をしていかなければならない。また参加者には平和委員会に入ってほしいという勧誘チラシを持って行って呼びかけるのがいい。
- 憲法フェスタへの参加を、会員以外の人を呼びかけた例はあるのだろうか。会員以外の人への働きかけを意識してやるのが重要だと思う。
- 北茨城平和委員会は平和委員会の会員でない人の参加多い。
- 地域で、九条の会の世話人に平和委員会への加入呼びかけビラを手渡しして勧誘した。チラシに地元の平和委員会の名称を入れて渡したらいいのではないかな。
- 各平和の会・平和委員会は、憲法フェスタの取り組みに、「個人7~10口以上、団体は1口以上やりきろう」という形で提起することはどうだろう。
- 会員数に比例して頑張ってもらわないと、目標の達成は難しいのではないだろうか。
- 憲法フェスタで平和委員会は財政担当だ。毎回、平和委員会は200口の賛同金を集約している。これはダントツに多い。

会員は1,000人いる。だから200口というのは、各平和の会・平和委員会では、平均おおよそ10口の勘定になる。それを念頭にして各平和の会・平和委員会で工夫してもらおうということだ。金額として個人10口分、団体(会)として1口分と考えていく。(「今までは按分でやったが今では難しいのではないかな?」の声)今までも各地域の力を見ながら按分しながらやってきた。今回もそれでやろう。



仲間づくり

- 非常に大変。自分の周りに声をかけて、300円の会費でやっている。人数を入れるということを考えていく。月に5名ということで、家族会員が増えるように声をかけていく。頑張る家族会員をつくっていく。その上で外部に出るという形を作っていくか？と会員は増えないのではないかな。
- 家族会員を増やすなど、今まで多くの人たちから言われている。そのことを常任理事会で追求できないなら、会員に訴えることも難しいし大変になる。そう言っても家族会員の勧誘は別な意味で難しい面もある。だからこそ常任理事が率先して取り組まないと、理事には広まらない。
- 「勧誘はまず身内から」ということを打ち出していく。「家族会員を進めよう」という方向で、会員拡大に頑張ろう。



大飯原発の再稼働反対声明

日本科学者会議 4月13日 声明

日本ペンクラブ 4月20日 声明

平和かわら版No. 623 (4月25日号) 別刷り

(2/2 ページ)